

サスカチュワン大学日本語講座 2年間の歩み  
 DEVELOPING A JAPANESE PROGRAM AT THE UNIVERISY OF  
 SASKATCHEWAN 2014-2016

クラスナイいづみ, サスカチュワン大学  
 Izumi Krasznai, University of Saskatchewan

## 1. はじめに

サスカチュワン大学(サスカチュワン州サスカトゥーン)の言語学・宗教学科 (Department of Linguistics and Religious Studies)において、2014年9月から新たに選択科目として日本語および日本文化のクラスが設置された。2014年9月から2016年6月までの2年間に、初級日本語1、2、中級日本語1、2、ポップカルチャーと映画のクラスが開講され、登録者数は517名であった。初級日本語1は毎学期、オンライン登録が始まって数時間で定員がいっぱいになるほどの人気である。しかし、これは新規講座であるための目新しさのためなのか、今後もこのような状況が続くのか、現段階では判断が難しい。本稿では日本語講座の現状を把握するために、本講座の2年間の現状を振り返り、考察する。そして今後の日本語講座が向かうべき方向の示唆を得たい。

## 2. 目的・使用データ

本稿の目的は、サスカチュワン大学の2年間の日本語講座の現状を把握し、今後の日本語講座の向かうべき方向の示唆を得ることである。

データはこの2年間の初級日本語1、2、中級日本語1、2のクラス名簿、及び学生が提出したプロフィールや授業評価を使用する。ポップカルチャーと映画のクラスは言語を学ぶクラスではないため、他のクラスとカテゴリーが異なると判断し、本稿では取り扱わない。このデータをもとに以下の3点を明らかにする。

- a. どのような学生が日本語講座に登録しているのか。
- b. 学生のニーズと目標は何か。
- c. 本講座は学生のニーズと目標に合っているのか。

## 3. サスカトゥーンおよびサスカトゥーン日本語教育

### 3.1. サスカトゥーンについて

サスカトゥーンはカナダの内陸、サスカチュワン州に位置し、州最大の都市(人口約22万人)である。人口においては州都のレジヤイナ(人口約20万人)より若干大きい。街には日本人が経営する日本料理や店などはなく、市内で日本語に触れる機会はほとんどない。サスカトゥーンの日系人口は100人ほどで、全人口の0.05%である。

### 3.2 サスカトゥーン日本語教育について

サスカトゥーンには大学の講座以外に、主に3つの教育機関がある。一つ目はサスカトゥーン日本語補習授業校である。1970年代に設立され、サスカチュワン州の継承語学校の中では一番古い。1980年代の終わりには、サスカチュワン大

学付属言語センターでノンクレジットの日本語コースが開講され、現在も開講されている。1990年初めには、市内の公立高校でも外国語の選択科目として日本語講座が開講された。現在も引き続き、公立高校3校でプログラムが継続されている。

### 3.3 サスカチュワン大学の日本語講座について

サスカチュワン大学はサスカチュワン州サスカトゥーン市にある州立の総合大学で、1907年に創立された。学生数は約2万人である。

本大学では1982-1983年に東アジア研究所で、1992年に経営学修士課程の授業の一部として日本語講座が開講されたことがある。現在は、言語学・宗教学科が選択科目として開講している。宗教学科では1950年代からアジアの宗教を教えてきた歴史があり、それに関連して中国語、サンスクリット語などのクラスが開講されてきた。しかし、仏教研究には日本も大きな位置を占めていること、神道などの日本の宗教に興味のある学生がいることなどの理由から、2014年から日本語が開講されるに至った。

2014年度から2016年度の間が開講された講座、簡単なコース内容は以下である。

	2014-2015年度(登録者数)	2015-2016年度(登録者数)
1学期	初級日本語1(51) 日本のポップカルチャーと映画(30)	初級日本語1(50) 中級日本語1(36)
2学期	初級日本語1(52) 初級日本語2(36)	初級日本語1(50) 初級日本語2(40) 中級日本語2(27)
春期/夏期 集中講座	初級日本語1(46) 初級日本語2(20) 日本のポップカルチャーと映画(19)	初級日本語1(42) 初級日本語2(18)

いずれも3単位のクラスである。授業数は1学期と2学期は、週50分×3回/週×13週、あるいは80分×2回/週×13週である。春期・夏期集中講座は1日140分授業が15週続く。

使用教材は「GENKI I」と「GENKI II」(Japan Times)で、初級1, 2では第1課から第10課まで終了し、中級1, 2では第11課から第20課まで終了する。

このコースでは、以下のことを目指している。

1)読む、書く、聞く、話すの4技能を身につける。

(初級：N5、中級：N4レベル)

- 2) 自分のことについて話すことができる。
- 3) クラスメイトや教師の話を理解することができる。
- 4) 積極的に教師やクラスメイトと日本語でコミュニケーションをはかる。
- 5) 日本の文化、習慣を知る。

#### 4. データ分析

##### 4.1 どのような学生が日本語講座に登録しているのか。

2014-2016年の2年間に日本語を登録した学生の専攻、学年を学生名簿をもとにまとめた。

専攻	人数	専攻	人数
コンピューターサイエンス	54	言語学	26
解剖学・細胞生物学	4	宗教学	6
生物学	19	フランス語	3
生理学・薬理学	7	英語	22
生化学・バイオテクノロジー	10	心理学	26
化学	6	人類学	1
地球環境科学	3	法学	1
食品・バイオプロダクトサイエンス	5	財政学	7
微生物学・免疫学	5	経済学	38
農学・生物資源学	5	経営学	7
食品・バイオプロダクトサイエンス	2	会計学	16
アニマルバイオサイエンス	2	マーケティング	6
オペレーションマネージメント	3	政治学	2
ビジネス	5	社会学	12
数学	3	社会科学	1
工学	7	考古学	2
栄養学	2	音楽	2
地質学	4	芸術	10
歴史	6	演劇	3

国際関係論	4	未定	119
運動学	1	合計	468
看護学	1		

学年	1	2	3	4	大学院生	合計
人数	103	123	134	102	6	468
留学生	48 (46.6%)	72 (58.5%)	48 (35.8%)	36 (35.3%)	3(50%)	207 (44.2%)

#### 4.2 日本語を学習する理由、目標・目的

本コースでは、学期当初に学生に自己紹介を含め簡単なプロフィールを提出してもらっている。但し、2014-2015年度の初級日本語2では、前学期から引き続いてクラスを取っている学生がほとんどだったため、プロフィールの提出は行わなかった。プロフィールを提出したクラスは、初級日本語1六クラス、初級日本語2二クラス、中級日本語1一クラス、中級日本語2一クラスで、提出率は53.4%であった。プロフィールの項目の中の「日本語を学ぶ理由」「学習目標」をもとに、学習者の日本語を学習する理由、学習の目標・目的の上位10位を以下にまとめた。(複数回答可)

日本語を学習する理由		学習目標・目的	
1. 文化(ポップカルチャー含む)に対する興味、文化が好きだから	28%	1. 会話ができるようになること、日本人と話ができるようになること	23.7%
2. 日本に行きたいから (旅行、仕事、留学など)	22.3%	2. 基本的な読み、書き、話すができるようになること	15.1%
3. 日本語に対する興味	15.4%	3. 日本に行くこと (旅行、仕事、留学など)	10.3%
4. 単位のため	6.3%	4. 漫画、アニメ、映画、歌詞を日本語で理解できるようになること	7.7%
5. 日本人と話したいから 会話ができるようになりたいから	6%	5. 単位を取ること、いい成績を取ること	7.7%
6. 外国語を勉強するのが好きだから	5.1%	6. 日本語が読めるようになること	7.4%

7. 日本語学習を続けたい (過去に学習したことがある)	4.6%	7. 日本語の文法や構造が理解できること	6.1%
8. アニメや漫画を日本語で理解したいから	3.4%	8. 流暢になること	4.2%
9. 教室環境で学びたいから (独学経験あり)	1.4%	9. 昔習った日本語を維持すること、 そこから上達できること	4.2%
10. 楽しいから	1.1%	10. 漢字や複雑な文が理解できること	3.2%

#### 4.3 学生の授業評価

学期毎に学生が提出したオンラインコース評価で、2016年7月現在結果が出ているもの(2014年9月から2016年4月までのもの)を以下にまとめた。項目は学習(コースのやりがいなど)、教師の熱意、人間関係、試験・成績(評価基準のポイントは適切であるかなど)、クラス全体の評価、教師の評価、授業の構成・わかりやすさ、学習の深まり(様々な理論・視点の提示など)、グループ作業(クラスディスカッションへの参加、考えや知識の共有の奨励など)、宿題・リーディング(適切さなど)の10項目である。提出率は50.5%であった。

学習・学術的価値	4.44/5	講義評価	4.42/5
教師の熱意	4.64/5	授業の構成・わかりやすさ	4.21/5
人間関係	4.60/5	学習の深まり	4.36/5
試験・成績	4.35/5	グループ作業	4.42/5
クラス評価	4.35/5	宿題・リーディング	4.56/5

#### 4.4 コース目標と学生の学習理由、目標・目的、現状との比較

日本語講座が目指しているコース目標と学生の学習理由や目標・目的、現状を比較した。

コース目標	VS	学生のニーズ、現状
4技能を身につける	<input type="checkbox"/>	基本的な読み、書き、話すができること (目標目的第2位 15.1%)
自分のことが表現できる。教師やク	<input type="checkbox"/>	会話ができる、日本人と話ができる

クラスメートの話を理解する。		(目標・目的第1位 23.7%)
日本の文化、習慣を知る	<input type="checkbox"/>	文化に興味(学習理由第1位 28%)
クラスメート、教師とのコミュニケーション	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	初級1は大所帯のため、特定の学生とのコミュニケーションはできる。教師が全員と話すことは難しい。  中級になると徐々にそれができるようになってくる。人間関係もできてくる。

## 5. 考察・結論

### 5.1 どのような学生が日本語講座に登録しているのか。

本講座を開講している学科は言語・宗教学科であるが、そこに所属する学生だけではなく、コンピューターサイエンス、商学・ビジネス系、理系など、幅広く様々な学部・学科の学生が履修している。初級は1,2学年の学生が多く、中級になるにつれて上級生が履修している。留学生は全体の44.2%であり、その多くが中国人留学生である。

教室には様々なバックグラウンドを持った学生が「日本語」という共通の興味を持って集まっている。

### 5.2 学生のニーズと目標は何か。

学期の最初に提出したプロフィールによると、日本語を学習する一番の理由は「文化に対する興味」であった。次に「日本に行きたいから」「日本語に対する興味」が続く。目標・目的は、「会話ができるようになること／日本人と話ができるようになること」がトップであった。次に「基本的な読み、書き、話すができるようになること」「日本に行くこと」が続く。

以前から日本や日本語に強い興味を持っていた学生が、日本語のクラスを履修している。日本語は学生にとっては選択科目であるが、明確な目標や目的を持っている学生が多い。

### 5.3 本講座は学生のニーズと目標に合っているのか。

コース目標と学生のニーズ、現状を比較した結果、一致している部分が多く、学生のニーズにほぼ合っていると見える。しかしクラスメート、教師とのコミュニケーションに関しては、初級1のクラスサイズが大きいため、教師が学生全員とコミュニケーションをとるのは難しい。その分、学生同士のコミュニケーションをより奨励しているが、クラスメートと打ち解けるまで時間がかかる。近くの学生としか話さない、あるいは一人で孤立して誰とも話さない学生もいる。大所帯のクラス全体をまとめていく工夫が今後とも必要である。

毎学期、大学が実施する学生によるオンラインクラス評価では、コース全体の平均は4.44/5という高い評価をもらった。「進度はちょうどいい」「たくさんのことを学んだ」「面白いクラスだった」「友達に勧めたい」などというコメントがある反面、「進度が速すぎる」「宿題やテストが多すぎる」「専門が忙しくて勉強する時間がない」という(12人/コメント回答者108人中)もあった。日本語は学生にとって選択科目の一つに過ぎないため、日本語に時間が割けない学生もいる。初級1は一クラスの人数が多いせいか、クラス内の学力差も非常に大きい。

このオンライン評価は、あくまでもコースに対するものであるため、学生が授業中にどのようなことを学び、具体的に何を困難に感じているのかが見えづらい。そのため、もっと学生の声が聞ける独自のアンケートを実施する必要がある。学生の声を聞きながら、コース内容を学期ごと、年度ごとに微調整していく必要があるだろう。

#### 5.4 サスカチュワン大学の日本語講座が向かうべき方向とは

本学の日本語講座は「州内の数少ない教室学習の場」である。長年日本ファンであった学生が初めて日本語を学ぶ場である。あるいは過去に日本語を学んだことがある学生が、学習を継続できる場である。教室で自分と同じ興味を持った学生に会い、一緒に勉強ができる場である。

更に過去に日本語を学んでいた学生、日本に住んでいた学生が、後輩の日本語学習を手伝うことで、自分の日本語を生かすことができる場である。また本学の数少ない日本人留学生が関わることで、彼らにとっても自分の母語や文化を再認識する良い機会になる。日本人の少ないこのサスカトゥーンでは、日本語講座が日本語を通して学生が交流できる、コミュニティーの役割を果たすことが大切であると考えている。

更に今後、サスカトゥーンの日本語講座の方向性を考えていくためには、本大学よりも歴史の長い、市内の他の教育機関の先生方とつながりを持ち、一緒に考えていくことが必要である。

## 6. おわりに

サスカチュワン大学の日本語講座は、今年の9月から3年目を迎える。2016年-2017年度は、初級日本語2、中級日本語1, 2の登録者数は昨年度よりも減少傾向にあるが、初級1は1, 2学期とも既に定員に達しており、3年目の今も人気は衰えていない。日本語講座が学生に愛される、魅力的な講座であり続けるために、今後も定期的に学生の声を聞きながら、学生とともに日本語講座の歴史を作っていくいきたい。

参考資料

<https://en.wikipedia.org/wiki/Saskatchewan>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/サスカチュワン州>

[https://en.wikipedia.org/wiki/University\\_of\\_Saskatchewan](https://en.wikipedia.org/wiki/University_of_Saskatchewan)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/サスカチュワン大学>